

令和5年度 全国学力・学習状況調査結果

1. 調査の概要

- 【調査の目的】 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、
- 全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することによって、国や全ての教育委員会における教育施策の成果と課題を分析し、その改善を図る。
 - 学校における個々の児童生徒への教育指導や学習状況の改善・充実等に役立てる。
 - そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 【実施日】 令和5年4月18日（火）
- 【対象学年】 中学3年生
- 【調査内容】 ①教科に関する調査（国語・数学・英語）
②質問紙調査

2. 学力調査（教科に関する調査）結果の概要

各教科の結果から～過去の結果や全国・大阪府平均と比較して～

3教科の平均無解答率は、大阪府の平均無解答率より低く「全員が諦めずに問題に取り組む姿勢」が見られました。また、国語と数学においては、中学1年次、中学2年次に受験したチャレンジテストの平均正答率の対府比を上回る結果となりました。

※以下、○は成果と見られるもの、◆は課題と見られるものを例示しています。

① 国語

〈学力調査より〉

漢字の読み書きや基礎的な知識は改善がみられました。また、記述式問題に関しても正答率の向上と無回答率の改善が見られました。その反面、文章の大まかな内容理解の力や古文の読解に課題が残っています。

○評価の観点【知識及び技能：7問】

正答率〔河原城 65.8%、府 68.3%、国 69.4%〕

○評価の観点【思考・判断・表現：9問】

正答率〔河原城 66.5%、府 67.3%、国 69.7%〕

◆学習指導要領の内容【話すこと・聞くこと：3問】

正答率〔河原城 79.5%、府 79.5%、国 82.2%〕

〈今後の授業で〉

- ①新聞の切り抜き等を活用し、文章理解や内容から自分の考えを書く機会を定期的に設ける。
- ②多くの文章に触れさせ、「文字を読む力」と「語彙力」の育成。
- ③古文の問題に定期的に取り組み、古語や古文文法などの知識・理解の向上に努める。

② 数学

〈学力調査より〉

「数と式」「関数」「データの活用」の領域においては全国（公立）平均正答率を上回っています。課題である、記述式問題においても全国（公立）平均正答率を上回っています。しかし、『図形』領域において平均正答率が大阪府よりも2.7%低い結果となりました。

○自然数の意味を理解しているかどうかをみる

【数と式：選択式】正答率〔河原城 60.3%、府 48.3%、国 46.1%〕

○事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる

【関数：記述式】正答率〔河原城 47.6%、府 38.9%、国 42.8%〕

○複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる。【データの活用：記述式】正答率〔河原城 37.3%、府 28.2%、国 33.6%〕

◆ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる

【図形：記述式】正答率〔河原城 31.0%、府 33.2%、国 32.1%〕

〈今後の授業で〉

- ①基本的計算の反復練習も行いながら、数学的用語を使えるように知識分野の復習も随時行う。
- ②図形の証明問題について授業、もしくは課題で昨年度よりも多くのパターンを実践する。
- ③結論を導くために何が分かればよいかを明らかにしたり、与えられた条件を整理したり、着目すべき性質や関係を見だし、事柄が成り立つ理由を、筋道を立てて考えたりする活動を取り入れる。

③ 英語

〈学力調査より〉

選択式形式の問題においてはすべての問題において無解答率は0%と、取り組もうという意識は見られます。しかし、記述式形式の問題において無解答率はそこまで大阪府平均と差がないながらも、正答率はどの問題も半分程度しかなかったため、まだまだ改善の必要があります。

○情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる

正答率〔河原城 77.5%、府 77.7%、国 79.0%〕

○日常的な話題について、短い文章の概要を捉えることができるかどうかをみる

正答率〔河原城 31.0%、府 34.7%、国 34.7%〕

◆「相手の「行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことができるかどうかをみる

正答率〔河原城 14.0%、府 28.9%、国 29.0%〕

〈今後の授業で〉

- ①引き続き単語テスト等、行い語彙力をつけていく。
- ②文章読解問題の演習をさらに積み重ねていく。
- ③ライティングスキルの育成。短めの文から少し長めのまとまりのある文を書けるように指導していく。

3. 学習状況調査（勉強・生活等に関する調査）結果の概要

質問紙調査から～全国・大阪府平均と比較して～

【成果】

学校全体で、過去の全国学力・学習状況調査、チャレンジテストの分析から、授業改善に取り組み、以下のような成果を上げました。

(1) 家で計画を立てて勉強をしていますか (学校の授業の予習や復習も含む)		河原城	大阪府	全国
	→肯定的回答の割合が高い	61.5%	50.7%	55.0%
(2) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC、タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか (遊びなどの目的に使う時間は除く)		河原城	大阪府	全国
	3時間以上	9.4%	2.8%	2.1%
	2～3時間	4.3%	2.9%	2.9%
	1～2時間	10.3%	7.2%	8.4%
	30分～1時間	20.5%	15.6%	17.8%
	30分より少ない	35.9%	31.9%	34.1%
→授業以外でICT機器を使った学習に取り組む生徒が全国・府平均よりも多い	全くしない	16.2%	39.2%	34.3%
(3) 1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか		河原城	大阪府	全国
	→肯定的回答の割合が高い	75.2%	64.4%	62.1%
(4) 1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか		河原城	大阪府	全国
	→肯定的回答の割合が高い	89.8%	77.0%	79.2%
(5) 1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか		河原城	大阪府	全国
	→肯定的回答の割合が高い	80.4%	68.5%	69.1%
(6) 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか		河原城	大阪府	全国
	→肯定的回答の割合が高い	78.6%	67.9%	69.2%
(7) 授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか		河原城	大阪府	全国
	→肯定的回答の割合が高い	81.2%	68.5%	69.9%
(8) 学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか		河原城	大阪府	全国
	→肯定的回答の割合が高い	80.3%	76.8%	79.7%

【課題】

(9) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強していますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む） →全くしない・30分より少ない割合が高い		河原城	大阪府	全国
	3時間以上	11.1%	14.5%	10.3%
	2～3時間	23.1%	24.5%	23.4%
	1～2時間	27.4%	26.8%	32.1%
	30分～1時間	14.5%	13.7%	18.0%
	30分より少ない	17.1%	10.5%	9.9%
	全くしない	5.1%	9.8%	6.0%

(10) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む） →全くしない・1時間より少ない割合が高い		河原城	大阪府	全国
	4時間以上	3.4%	7.8%	6.6%
	3～4時間	11.1%	10.5%	11.5%
	2～3時間	15.4%	16.3%	21.7%
	1～2時間	17.9%	20.0%	25.3%
	1時間より少ない	31.6%	23.4%	21.7%
	全くしない	17.1%	21.5%	12.5%

(9)(10)について、

全国・大阪府平均に比べて、大きな差があるわけではないが、家庭学習の習慣が確立されていない（全くしない）生徒もいる。従来の課題の提示の仕方だけでなく、タブレットを活用した課題を設定し、家庭学習につなげていく。夏休みには「ドリルパークサマーチャレンジ」という取り組みを実施し、昨年度の夏休み期間と比べて全生徒合計で約10倍の問題に取り組んだ。2学期以降、生徒が家庭で自らすすんで学ぶことができるように、課題の提示方法の工夫を行っていく。

4. 河原城中学校の学習状況と教科正答率との関連

～生徒質問紙と教科正答率のクロス集計からみた傾向～

(1) 朝食を毎日食べていますか [している・どちらかといえば、しているの割合]			
河原城	大阪府	全国	朝食を毎日食べている生徒は全体の80%程度いる。全国・府平均より下回る。毎日朝食を食べている生徒ほど、教科の正答率が高い傾向にある。
82.1 %	88.7 %	91.2 %	
(2) 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか [している・どちらかといえば、しているの割合]			
河原城	大阪府	全国	80%程度の生徒が毎日、同じくらいの時刻に寝ることができている。全国・府平均を上回る。毎日同じくらいの時刻に寝ている生徒ほど、教科の正答率が高い傾向にある。
80.3 %	77.2 %	78.0 %	
(3) 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか [している・どちらかといえば、しているの割合]			
河原城	大阪府	全国	90%程度の生徒が毎日、同じくらいの時刻に起きることができている。全国・府平均を上回る。毎日同じくらいの時刻に起きている生徒ほど、教科の正答率が高い傾向にある。
93.2 %	90.4 %	91.3 %	
(4) 自分と違う意見について考えるのは楽しいですか [当てはまる・どちらかといえば、当てはまるの割合]			
河原城	大阪府	全国	70%程度の生徒が自分と違う意見について考えるのは楽しいと感じている。全国・府平均より下回る。自分と違う意見について考えるのは楽しいと感じている生徒ほど、教科の正答率が高い傾向にある。
71.8 %	75.5 %	77.6 %	
(5) 家で自分で計画を立てて勉強していますか (学校の授業の予習や復習を含む) [当てはまる・どちらかといえば、当てはまるの割合]			
河原城	大阪府	全国	60%程度の生徒が家で計画を立てて勉強をしている。全国・府平均を上回る。家で自分で計画を立てて勉強している生徒ほど、教科の正答率が高い傾向にあり、家庭学習習慣の定着のための取り組みを進めていく必要がある。
61.5 %	50.7 %	55.0 %	
(6) あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか (一般の雑誌、新聞、教科書は除く) [101冊以上の割合]			
河原城	大阪府	全国	家にある本数は全国・府平均より大きく下回る。家に本が多くあると答えた人ほど、教科の正答率が高い傾向にある。また、40%程度の生徒は学校の授業以外で本を「全く読まない」と答えている。本に触れる機会を増やしていく必要がある。
14.5 %	30.1 %	32.7 %	
(7) 読書は好きですか [当てはまる・どちらかといえば、当てはまる]			
河原城	大阪府	全国	60%程度の生徒が読書は好きと答えている。全国・府平均より下回る。読書が好きと答えた生徒ほど、教科の正答率が高い傾向にある。朝読みの時間や授業を通して、読書に興味をもたせる取り組みを進めていく必要がある。
57.2 %	61.0 %	66.0 %	

5. まとめ ～保護者のみなさまへ～

【学力調査（教科に関する調査）について】

概要にもありますように、今年度も3教科の平均無解答率は、大阪府の平均無解答率より低く、ここ数年取り組んできた「全員が諦めずに問題に取り組む姿勢」が定着してきていると感じています。

また、国語と数学においては、中学1年次、中学2年次に受験したチャレンジテストの平均正答率の対府比を上回る結果となりました。

しかし、教科ごとで見ると手応えとともに課題も見られ、今後はその克服に向けた対策について取り組んでいきたいと考えます。（参照：国語、数学、英語の分析結果）

【学習状況調査（勉強・生活等に関する調査）について】

質問紙調査から、(1)「家で計画を立てて勉強をしている」(2)「学校の授業時間以外に、普段（平日）1日当たりどれくらいの時間、PC、タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っているか」(3)「1・2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなど工夫して発表した」といった項目については、大阪府、全国平均を大きく上回っていることから、コロナ禍を経て、ICT機器を活用して学習に取り組む方法や意欲、そして、自分の考えを工夫して発表する意識が高まっているように感じます。

今後とも、私たち教員は、子どもたちの良い部分を伸ばし、課題を克服すべく、さらなる充実をめざした教育活動を心がけてまいります。

【学習状況と教科正答率との関連について】

クロス集計から見えた傾向からも、生活習慣に係る「朝食を毎日食べること」「携帯電話における家庭でのルールづくり」「本に触れるなどの読書習慣」等について、各ご家庭にお願いする部分もあることから、今後も学校は、保護者のみなさまと“一緒に”子どもの成長を見守っていかれたらと考えます。

以上をもって、令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果報告とさせていただきます。今後とも連携方よろしく願います。

校長 笹井 貴治